

親は自分に目を向けて 子どもを ひたすら信じ抜け～！！



写真は中学2年生の息子さんとお母さんです。

「息子さんへの不安は、お母さん自分自身の不安なのですよ。お母さんが自分に自信が持てないことが原因なんですよ」

「親は自分に目を向けて、ひたすら子どもを信じ抜け～～！！」

タイトルどおり、お子さんの前で

お母さんが太田東西から説教されているところです（笑）

中学生の子どもを持つ親の心配事はいろいろありますが、一番に多いのは「勉強」のことでしょう。

では、勉強ができる子と、勉強ができない子の違いは何か？

勉強ができる子は、親に「勉強しなさいっ！」と言われた記憶がない。親自身も子どもに、「勉強しなさいっ！」と言った記憶がないようです。

「いや、勉強できるから、親子にその記憶がないんじゃないですか？」
そう反論したくなる気持ちもわかりますが・・・(><)

親が「勉強しなさいっ！」と言えば言うほど、子どもは勉強しないものです。親の言うとおりに塾通いしても、テストの成績はなかなか上がりません。なぜなら、塾でも塾の先生に従順になって、わかって(理解して)いないのに「わかったフリ」を演じるからです。

勉強ができない子は、「わからないところがわからない」のです。
「わかろうとしない」のではなく、「わかり方がわからない」のです。
この意味わかります？(笑)

「わかったぞ!」「こうすればいいんだ!」「できた!」「またできたぞ!」
そうした達成感や喜びを得られたら、子どもは一気に飛躍するのです。

誰だってそうでしょう。わからないこと、つまらないことはしたくない。
「いや、学生は勉強が本分でしょう!」
またまたそうした反論が聞こえそうですが・・・(><)

勉強させたい親と勉強したくない子どもの“VS関係”のままでは、双方が勉強のことでいつも言い争いになり、家庭は暗くなってしまいます。

「子どもの居心地の良い家庭をつくる」

それが子育てで一番大切なはず。

そもそも親が子どもの「勉強」「成績」にこだわるのは、なぜでしょう？
「それは子どもの将来の事を考えて、いい生活してほしいからですよ!」
これにも速攻、親御さんからの正論が飛んで来そうです・・・(><)

表紙のお母さんには、「学歴コンプレックス」がありました。

「いい学校＝いい会社＝いい生活」

この方程式を信じ込んでいらっやいました。

え～～～失礼ながら、私は、その“例外”をたくさん経験してきました。

私見では「一流大学＝一流会社＝高収入 明るく楽しい健康的な家庭」です。

よくお客様に申し上げていますが、良い医者選びは、建物が立派だとか、テレビに出ていたとか、最終学歴で選ぶのではなく、相手の“人間性”を見抜くことです。

“医者になった志”で選ぶ。

「勉強ができたので医者になった」「祖父も父も医者で、子どもの時から医者になるように言われて来て仕方なく」といった動機と、「自分が子どもの頃に、ぜんそくがひどくて辛かったので、病気の子どもたちを治してあげたいと思って」という動機と。

いわんや「母が勉強しろ！医者になれ！とうるさかったので、母の希望どおり医者になりました」という動機はどうでしょう？（笑）

「勉強しなさいっ！」が口ぐせになっている親御さんは、改めて

「いったい何のために、学校の勉強が必要なのか？」

「勉強ができたとして、それで幸せになれるのか？」

冷静に親子で話し合ってみましょう。

とは言っても、それがなかなか家族だけではできないもの。

そこで太田東西薬局太田先生（teacher）の出番なんですね！（笑）

こちらのお母さんには、2つアドバイスしました。

1つは、親の期待に応えられなかった自分の姿を、子どもに投影して不安になっているんだ・・・と自分を客観視すること。

古い観念を捨てて、新しい価値観を確立していくこと。

2つめは、「押してもダメなら引いてみな」の実践です。

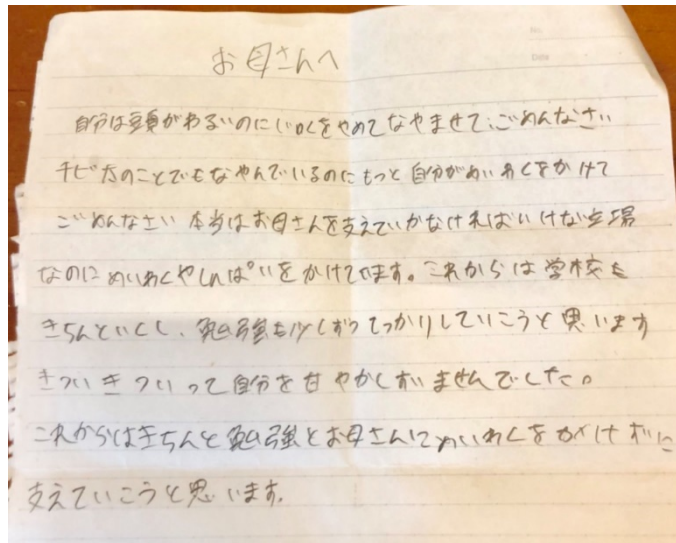
「もう勉強しなくてもいい。塾も行かなくていい。ごめんね、お母さん、どうかしていた。あなたが元気であることがお母さんの一番の喜びなのに」と引いてみる。

お子さんにソフトにさりげなく謝ってごらん。そんなこと言えば、ますます調子に乗って自堕落になるのでは？と、やっぱり不安になります？（笑）

その不安を乗り越えるのが、お母さんの勉強（修行）なんですよ。

「学校の成績が悪くても大丈夫！ 勉強がすべてじゃない！ 人生、なんとかなる！
好きな仕事を見つけて、自分の力で明るく楽しく生きていく、それが一番大切！」
そう子どもに心から言えるためには、お母さん自身がそうした生き方に転換していく。
まずは自分の可能性を信じて、自分の人生を向上させていくことです。

そのアドバイスを素直に受け入れて実践して下さったお母さんから、数日後
「息子さんから手紙をもらった」と連絡がありました。



自分は頭が悪いのに塾をやめて悩ませてごめんなさい。チビ太(猫)の病気でも悩んでいるのに、もっと自分が迷惑をかけてごめんなさい。本当はお母さんを支えて行かなければいけない立場なのに迷惑や心配をかけています。これからは学校にもきちんと行くし、勉強も少しずつしっかりしていこうと思います。きついきつって自分を甘やかすみませんでした。これからはきちんと勉強とお母さんに迷惑をかけずに支えていこうと思います。

子から母への、なんと素晴らしい手紙でしょう！（泣）
誓って、お母さんがお子さんに正座させて強制的に書かせた反省文ではなく（笑）
居間のテーブルの上に置いてあったそうです。

国語のテスト100点よりも、この主体的な反省こそが人生では最も大切。
自分の気持ちを素直に現わせた、お子さんは100点満点です！！ \ (^o^) /

さあ～今度はお母さん、あなたが我が子の言動や成績に一喜一憂せずに
この手紙と子どもを“信じ抜くことができるか？”ですね。